

令和5年度第1回地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館評価委員会議事概要

令和5年8月8日(火)午後6時00分～午後7時20分

旧館4階 正庁

【出席者】

- 委員:6名(岩瀬委員、円城寺委員、大川内委員、鴨打委員、古賀委員、松永委員)
(50音順)
- 法人:15名(樗木理事長、佐藤副理事長、前理事、内藤理事、原理事、宮地理事
外9名)
- 事務局:7名(實松健康福祉部長、野田医療統括監、小林健康福祉部副部長、
森医務課長、山田医務課副課長、外2名)

【議事】

(1) 令和4年度業務実績評価について

◎法人から資料2-1～2-2により、令和4年度の業務実績について説明を行った。

《質疑》主な質疑は以下のとおり。

(令和4年度業務実績について)

○委員

医師の働き方改革が来年からいよいよ始まると思うが、それに向けて順調に進んでいるか。

○法人

働き方改革に向けては数年前から着手している。次年度から始まるため、医師の時短計画書を評価センターに提出して、評価を待っているところである。評価決定後、県へ提出する。

現時点で、960時間を超える医師が存在している。基準というA水準ではなく、B水準を申請している。これは、960時間を超える医師がいる診療科が複数であるためである。

まだ若く研修中である専攻医という先生方がおり、その中にも時間外が960時間を超えている人たちがいるため、C1水準ということで申請している。

○委員

救急救命士を3名採用されたということだが、これは、基本的には3名で機能が果たされるのか。

○法人

3名で機能を果たすというより、今は研修を通じて、まずは育ててもらおうことと考えている。

このことは、好生館職員に対するタスクシフトにも役立っている。今年度も1名採用して、現在4名体制としているが、今後はこの体制で順次教育体制を構築していく予定にしている。

○委員

財務諸表の3ページ損益計算書について、営業外費用の雑支出の7,200万円、この雑支出というのは何に当たる分か。

○法人

これは営業外支出であり、損害保険の解決金等に支出しているものである。この支出は解決金として払っているが、保険に入っているため、その分は全額営業外収益となっており均衡は取れている。

◎事務局から資料 3-1~3-2 により、令和4年度の業務実績に関する評価案について説明を行った。

《質疑》

主な質疑は以下のとおり。

(令和4年度業務実績評価(案)について)

○委員

小項目である費用の節減について、薬剤比率が目標値に達していないということで、案では A 評価だが、現実問題として後発医薬品が中々入ってこない状況ということを知っている。実際全体のうち後発医薬品はどのくらいの割合か。

○委員

実際の現場でも、後発医薬品は入らず、メーカーを変えたり、同種薬剤を使ったり、苦労している。

○委員

後発医薬品があまり入らない状況の中で、法人側も一生懸命頑張ったことを評価してもいいのではないかな。

○事務局

後発医薬品の割合等、お調べして評価案の検討をさせていただく。

○委員

小項目である地域の医療機関等との連携強化について、法人の自己評価である AA 評価から、案では S 評価とされている。地域の医療機関に医師を派遣したり、R4 から唐津市民病院きたはたにも医師派遣しており、非常に評価できるものだと思う。ずっと高い水準を維持している紹介率・逆紹介率よりは、そうした取組を評価の理由にしたほうがいいのではないかな。

○委員

S 評価にする根拠はもう少しほしいと思う。

○事務局

連携強化の部分については、新型コロナウイルス感染症の感染者で、特に重症者の受入れを積極的にやってくれたということは、特に評価すべきポイントであるので、少し理由を補足したいと思う。

○委員

評価自体に関わることはないが、それぞれの手術件数は書いてあるが、全体の手術件数はどのような状況か。収益にも影響があると思ったので、お聞きしたい。

○事務局

中期計画等で特定の手術件数については、把握しているが、病院全体の手術件数については後日確認させていただく。